

## HANA のこころ SPIRIT OF HANA HAWAII

「HANA」とは…

HANA それは ハワイ語のOHANAと日本語のHANA(花)を  
融合させたアーティフィシャルな言葉

OHANAとは

昔々からハワイの人々は心と心のつながりを大切にしていました  
そんなこころを表すOHANAは、血縁関係を超えた人々のつながりのこと…  
つながりや分かち合いを大切にする精神のこと  
お互いに助け合うことを厭わない親しい友人や仲間、本当の家族のこと  
地球すべてがつながった永遠の家族だということ

HANAとは、花のこと

人は誰でも本当は 美しきものを見つめ 美しいと感じるハートを持っていました  
そのように人々は本来は美しい花の種  
それぞれに美しい花を咲かせるために生まれてきたのでしょう

# MARTHが30年に渡り書き綴り伝え続けた メッセージをほんの一部をご紹介します

The world where we live is immeasurably unknown and mystical in reality.  
It is not this world nor a reality. However, our science has not revealed it yet.

It hasn't even told us we are neither alive  
nor dying and within something like a physical movie.

If a concept of the eternal life is possible,

I cannot but feel it comes from our awareness to such an unreality only...

私たちが存在するこの世界は、  
本当ははかり知れない未知で神秘なるところであるのです。

この世でもなく、現実でもなく、私たちの科学は未だ、

そのことを公表できていません。

生きてもなく、死することもない、

物質映画のような中にいることにすら…。

もし、永遠の命という概念が可能となることがあるとしたら、

そのような非現実への気づきからしか

生まれないと感じてなりません…。

Human illusions have been polluting the space which we call the world.

We have forgotten that we are unknown

we have ignored that we live in the unknown;

we have not seen through Oneness of the whole creation,

we have forgotten that we are not in this world, nor in this time,

nor in this place and nor are we anybody…

A part of the unknown called "I" wrote it as poetry.

人の妄想(ゆめ)は

世界と人が呼ぶところを汚染し続けてしまっています

私たちが未知であることを忘れ

神秘の中で生きていることに気づけなくなり

万物すべてがつながった一体であることが見抜けなくなり

この世でもなく いつでもなく どこでもなく

誰でもないことを忘れてしました

"私"と呼ぶ未知の一部は

それを詩にしたのです

The people never wished to fight and kill others  
who they believed separate and divided from  
in spite of being one in reality.

They headed for the east.

We never wish to harm the people who we believe other  
as we are one to the whole universe...

We cannot but hope sincerely to love each other some day...

本当はひとつなるものたちと  
隔たり 分裂したと思い込み  
彼らと戦ったり、殺したりなど  
けつしてしたくないと想う人々が東へと向かった。  
万物自然とひとつである私たちは  
他と思い込んだものたちを本当は、傷つけたくないのだ…  
本当はいつの日にか、  
愛しあいたいとさえ深く願ってやまないのだろう…

If we lose our five senses,  
we will immediately lose a division or a feeling of separation from the whole  
and feel all the beings are nothing but ourselves.

If we find something marvelous for which we forget words,  
we will be embraced by something magnificent and mystical.

The truth is always there even if we try to avoid it,  
and both of them are something wonderful and beautiful…

私たちがもし  
五感を失つてしまえば  
万物すべてとの隔たりや分裂感は  
即座に失われてしまい  
すべてがみずからと感じてしまうことでしょう  
もし 私たちが

言葉を失うようなことに出会つたら  
とてつもない神秘の中に包まれてしまうのでしょうか  
眞実はさけようとしても現われてしまうのです

そしてそれは どちらも  
とてつもなく美しい何かなのです…

Far back in childhood, an awareness was there...  
the peacefulness of being one to the whole beings,  
although pushed aside from your memories  
That is a space where we are born out of,  
where we take a journey back,  
and where we become aware that we have been there all the way...

いつしかそれは  
記憶のかなたへと押しやられてしまったかに見える遠い日  
幼きころの意識…  
それはすべてとひとつであったやすらぎです  
それはあらゆる人がそこから出づるところでもあり  
そこへ還る旅であるところであり  
そこにいつづけたことに気づくところでもあるのです

MARTHの200枚を超えるアルバムの中にたくさんのメッセージが込められてきました。  
そのほんの一部をここでご紹介しました。



傷つけられても

愛そうとすること

HANA

ハワイは、あらゆる人々にとつて、  
幸せな美しいハートの島であること  
でしょ…。その最大の理由は、そ  
の地が世界中の人々を受け入れてい  
る、ということに他ならないでしょ  
う…。誰でもが、拒絶されることで、  
寂しいと思い、その地へ行きたいと  
は思えなくなってしまいます…。

HANA HAWAII MART  
HEALINGは、ハワイの人々が  
深い所に持つてゐる世界中の人々を  
愛したいと願うハートにあると感じ  
ています。誰もが幸せになつてほし  
い：戦争のない、平和な世界を創つ  
てゆきたい：沢山の人々に訪れて、  
幸せになつてほしい：そのような想  
いがあると、感じてなりません…。  
そしてそのように想うためには、内  
側で深く、敵をも愛する、傷つけら  
れても愛しむ、といったような隔た  
りを克服する意識が必要です。



### Magnificent Hawaii

素晴らしいハワイ  
詩 / 曲 MARTH

この胸の奥に誰もが持っている  
愛しき その想いをあなたが来たら 贈りたい

この島に残る 太古からの  
宝物は 誰のことでも  
愛そうとする 素晴らしきハワイ

この胸にいつも 大きな心持つて  
生きてることだけが ただひとつの誇りだから

この島に残る 太古からの  
言い伝えは 傷つけられても  
愛そうとする 素晴らしきハワイ  
許そうとする 美しきハワイ



素晴らしいハワイ  
インストゥルメンタル  
■COMA-1030 ¥3,000 (税込)

MARTH

自らと他、といった、二極分裂は、  
私がいて、他があるという信念に基づいています。それが科学的事実で  
あるかどうかは、今の人類はまだ、  
解明できていません。しかし、古  
代から、この世界がすべて自らであ  
る、一元である、一体である、ワン  
ネスである、ということが伝えられ  
てきています。そのようなところか  
ら見てみると、自と他という分裂は  
妄想に過ぎないのかもしれません。  
この曲はそのような想い、それこそ  
が古代からハワイに伝わる、想いで  
あるのだろうと。またそれが太平  
洋に広く広がっている古代文明の名  
残りではないか。そんな想いから、  
この楽曲は生まれました。

# 美しい旋律を奏でる音楽は天界からの贈り物

音楽の音と旋律は人に大きな影響を与えてくれます

Text: 森井啓二  
Photo : 森井啓二  
HANA Model AYA



## 愛娘 AYA オーストラリアにて

古くから MARTH MUSIC をクリニックや自宅、車でも流していたため、AYA も音楽を聴いて育った。MARTH CHILD AYA

## 日本が世界に誇るヨギにたずねて

クリヤヨガ40年歴 森井啓二先生（しんでん森の動物病院）

美しい旋律を奏でる音楽は天界からの贈り物。心身の調和を整える助けをしてくれたり、創造的なエネルギーを引き出す力を与えてくれたり、自分の波動をより良い方向へと調律してくれたり、人生のさまざまな場面で彩りを与えてくれます。

目に見えない美しい世界と物質世界の懸け橋になつてくれます方法の一つが音楽です。

そして音楽は多くの人が思つてゐる以上に深く、広く、波動を引き上げる力を持っています。私は心を鎮めて創造的なエネルギーを引き出してくれる音楽が大好きです。自然界のすべてのものは音楽的な波動を持つています。一枚の葉も、大きな岩も、小さな石ころも、空の深さや、大地の力強さ、木々の生命力、風の自由さにさえも、それぞれが奏でる美しい音楽があり、大自然の中ではすべてが一体化して調和していくまです。私たちの生体内の細胞も、原子も、音楽を奏でています。思いも行かないものになります。だから私はいつも無垢の自然の中に入つていくことをお勧めしています。』

大自然は、神が表現した美しい旋律に満ちているからです。音楽の音と旋律は人に大きな影響を与えてくれます。そして日常では自分が最もリラックスできる心地よい音楽をかけておくこともおすすめしています。優れた音楽は場も人も、崇高な方向へと導いてくれるからです。私もいろいろなお気に入りの音楽があります。その中から一つご紹介しておきます。夜、一人で静かに聴く音楽としておすすめです。「身体を失つても愛しているからフルートソロ with オーケストラ」このCDは、古代の真の愛を顕現していたリーダー的存在から現代の人へ向けたメッセージが込められています。拙著「君が代」の中で私は次のようなことを書きました。「古代の創世記の日本には、普遍意識に達した高次の意識を持つ集団が存在しました。地球を去った後も日本には、「和」の精神として、その集団の高い精神性の片鱗は日本人の心の中に残り伝わっています。そしてその影響は世界各地にも拡がり、各地に日本の遺跡に残された印と同調する痕跡が残されています。世界に散った民族の中には、その精神性を保持して再び日本へと戻ってきた民族もいました。



## Book

愛しているから 世界中の人へ贈る愛の詩  
フルートソロ with オーケストラ  
インストゥルメンタル  
¥3,024 (税込)



CD

**身体を失っても 愛しているから**  
フルートソロ with オーケストラ  
インストゥルメンタル  
¥3,000(税込)



### お話を伺った人

しんでん森の動物病院 院長森井啓二 先生

世界有数のホメオパシーの獣医にして、幼少時からスピリチュアルな体験を重ね、眞の和のこころを紐解く大著をしたためた日本が世界に誇るヨギ。MARTH MUSICをこよなく愛する人…

北海道大学大学院獣医学研究科卒業後、オーストラリア各地の動物病院で研修。1980年代後半から動物病院院長として統合医療を開始。著書に「臨床家のためのホメオパシーノート 基礎編」「臨床家のためのホメオパシー・マテリアメティカ」「一歩ずすんだセルフケアのためのホメオパシー」など。自然が大好き。40年前にクリヤヨギたちと会う。クリヤ・ヨガ実践。



動物や自然をこよなく愛しむ AYA



上自然仁皇在罪之限期有古子弘人者

古代日本にいた大師たちは、肉体を脱ぎ捨てた後地上では表現できないほどの美しい純白のオーラに包まれ現在の地上の人々から見ると神のトロウな存在として地球を見守つていまです。彼らが地上時代にいた日本が、この時期に再び人類の進化の中心となる役割があることは必然なのであります。」今回のこのCDは、このすべては一つであるという「和」の精神を再び日本へと持ち帰った古代の民族の愛と願いを感じます。今はこの世から去つてしまつたけれども肉体がない今でも私たちのことを真に愛していること、そして和の精神、直の人類の繁栄と万物から祝福されるための法則を記した古代の石版の直意を伝えたい気持ち、すべての人が再び高い精神性を取り戻してほしいという願い・・・。それらがこのCDの音楽で表現されています。

この曲を手掛けたのは、作曲家の MARTH 氏。彼は、天界の音楽を地上に持ってくることのできる懸け橋となる才能を持つています。かつて過去世ではヨギとしてまた瞑想の

てMARTH氏にお会いした時に、彼のバックグラウンドには、天界の音楽家たちや音楽に長けている天使たちがサポートしている様子が視えました。彼は一人で作曲しているというよりも多くの天界の音楽家たちの美しい旋律と天界からのメッセージをヒーリング・ミュージック



として地上に下ろす役割があるようです。このヒーリング・ミュージックという言葉は、英語圏では当初あまり受け入れられなかつた言葉です。ヒーリングという言葉にまるで病人が治すために聴くようなイメージが出てしまつたようです。かつては海外ではニューエイジ・ミュージックと呼ぶのが一般的でした。でも優れた音楽は、その音と旋律によつて場も人も含めたあらゆる存在を癒す力を持つています。自然界から一步離れてしまつた現代社会では癒しの力は必要です。それが理解されはじめ今ではヒーリング・ミュージックという言葉が定着しています。音楽で場と人の波動が上がると、こんどはその波動が上がつた人からもまたいい波動が放出され、よりよい影響が拡がつていきます。「身体を失つても愛しているからフルートソロWithオーケストラ」この音楽には一緒に読む書籍「愛しているから世界中の人に贈る愛の詩」もあります。音楽だけでは伝えきれないメッセージが込められています。

人を傷つけたくないために  
美しきスピリットたちは  
東へと向かつた

その民は、東の地、何万キロ以上の旅をしてでも、約束の地、大自然と万物と、また、とてつもないにかと約束をして、決して他の人をあやめない、奪わない。そのような心を決めて旅に出たと言います。屈強な男たちが何十万人もいて、まつたく敵と言われる人々と応戦もしないで逃げ続け、やつと国を作つたけれども、またそこに攻めこまれた時、相手を傷つけたくないがゆえに、その地を捨てた：東の地へ向かつたのだと：。そして、また、そのリーダーが遺したというものにも、やはり、傷つけたくない：、自然界や動物たちやあらゆるものを傷つけたくない：、そういうことが書いてあつたそです。それは、未知なるとてつもないレベルでは、すべてがつながつていてひとつである、そのようなことをその民は知つていた、この世でないこともわかつていたからではないか：と言ふのです。

しおう…。

愛しき人との別れの経験が、  
死を超えてゆくというテーマを  
彼にもたらしたのかもしれない：。

子どもの頃は、死がとても怖くて、お父さん死なないで、お母さん死なないで、自分も死にたくない、とよく泣いていたという。でも、「ここはどこかわからない。ばかり知れない。名前をつけることは出来ても、誰かはわからない。科学的にそのようなところで、生きているかどうかもわからない。

今回の本やアルバムの内容をはフイクショーンといきつていますが、MARTH の幅広い支持者のなかには多くの精神世界、ニューエイジ、古代歴史家、考古学者、様々な研究者や学者、医療関係者など、たくさんの支持者がいるうえに最近では許可を得てアーチを掘りに行くという人までもいるようです…。ましてや彼自身の一族も、淡路島にある空海が開いた寺だと言います。そこからすると、音楽や詩やエッセイの真髓に秘められた真実のようなものを感じるのは、そういう筆者だけではないで

# 未知や神秘の中で人はどうして死ぬことなどできるのだろうか…

それらはすべて変化に過ぎず、この未知からあの未知へ  
この神秘の世界からまた別の世界へ  
旅する旅人のようだと思えてなりません…。  
この世でないところにいるのになぜそれに気づけないのか…  
それがあたりまえになることが人類にとっての奇跡ではないだろうか…。

MARTH

素粒子レベル、電子レベル、もつともつと、  
そういう名前で言わないにしても、未知  
なるとてつもないレベルでは、すべてが  
つながっていてひとつである。」若き日、  
そのことに気づいてから、彼は死が怖く  
なくなつたと言います…。  
そして、宇宙の果ての果て、永遠に続く、  
夢のようだとも…歌にしています…。「自  
分のことで色んな苦しみやつらさがあつ  
たときも、私などいない、存在していない、現  
生まれてもいない、この世でもない、現  
実でもない、というような真の科学とい  
うのか、真実というのか、そういつたもの、  
リアリティの中に目覚めることでやすら  
ぎが来る」からと…。

「」の世界はとてつもない世界…神秘な  
る、永遠なる、宇宙の果ての果てどこまで  
も続く、まるで夢の中と同じでどこまでも  
続く世界である…。私たちはそこに名称付  
けをして現実だとか、名前で呼ぶことで、  
また、五感をとおしてもそのように確認す  
る。しかし、この世界は依然神秘であり、  
未知であり、この世かどうかすらわからな  
い…。私達は本当は、そういうところに実  
は存在している…、いや、存在しているか  
どうかすらわからない…。

存在していると、もし、仮定するためには、  
いつ、どこで、誰が、ということが必要  
になつてくるが、いつでもない、どこで  
もない、誰かもわからない…。名をつけて、  
一応地球とか銀河と名前をつけたとして  
も…、ここはどこか、ここはニューヨー  
クだ、ここはパリだ、と名前をつけたと  
しても、本当は、どこかわからないところ、  
永遠に…。名称付けが可能であつても、  
どこかわからない。はかり知れない。名  
前をつけることはできても、誰かはわか  
らない…。生きているかどうかも、だから、  
わからない。科学的に、素粒子レベル、  
電子レベル、もつともつとそういう名前  
で言わないにしても、未知なるとてつも  
ないレベルではすべてがつながっていて  
ひとつである」と…。彼は、そんなこと  
を詩に託しているようです…。

そして、いつでも、例えば、日課のブー  
ルに入つてているときでも、「私などいない  
…。ここではどこでもない…。未知なる、  
神秘なるところ…」と言いながら、眞の  
リアリティに気づくようにしていると言  
います。そして、また、音楽もすべて、  
そこから創つていると言うのです。

# 古代から伝わる 神秘なる世界

「古代では、もうこの世界があの世であり、この世ではないという感覚の中で、全人類がそのような認識を持つている場合、物質は変化します。素粒子レベルでは現在でも変化しています。見られたものは強まり、忘れ去られたものは薄まる…。それは原子レベル、素粒子レベル、そう呼んでいる、人類が今、呼んでいるレベルではそういうことが起こつてくるということはもうまもなく当たり前になつてくるでしょう。そういう世界の中では、『この世』という感覚ではないのです。そうなつてくると“生まれた”といふことも非常に当てにならない。また“死ぬ”といふことも、あの世で死んだら、何なんだろうか？わからない、神秘なる、未知なるところで死ぬというのは、本当にあるのでしょうか？」

詩で伝えていたる「物質が素粒子レベルに分解されてゆく、しかし、素粒子レベル、電子レベルで残る」それはどういうことなのでしょうか？これから科学は、これからの人類はそこに入つてゆくことになるでしょう…。

今後十年以内に急激に、そちらの方に向かうと思われます。そして、そのようなときには、この物質映画のような世界である、ということがますます明るみになり、そこで死ぬということはどういうことなのか、からだを失うということがどういうことなのか、ということも議論されてゆくことになるでしょう。」

We are in a vastness that cannot be understood.

In reality, it is a mystery and is immeasurable,  
now, at this very moment.

「そして、そこから見れば、古代の民の子孫であるイエスが、永遠なる命とか、死を超えていたと言つたことも、また、逆に、そのようなことに気づかないと魂を失うとか、死を迎えるといふに言つたのも、この世と信じている人々には死があるということであり、死の恐怖にさいなまれることになります。しかし、この世でないことを知つている人々、要は物質映画のような、とてもない神秘なるところだと気づいている人々には死がありません。彼がもしそのことを本当に言つたとすれば十字架に磔になつて死んでゆく時ですらも、私の教えを請う人々には死がない、と言つたのは、そういう意味で言つたのではないでしようか‥。また、そこから見ると自分を殺そうとする人たちに對して、彼らは何も知らないのです、神よ、お許し下さいと言つたとされていても理解できます。それは、つまり、物質を超えている、電子レベル、素粒子レベル、もつともつと細かいレベルでこの世界は存在している、すべてが一体でつながつてゐる、すべてがひとつで一体物であるというところから見ると、他と見えるものを滅ぼすということは、奪うということは、騙すということは、他と見えるだけで自である一体である、そしてそれは一種の物質映画の世界であるといふに理解した時には MARTHA が詩にし続けたように、当然そのような思いになつてしかるべきものなのではないでしょうか‥」と‥。

# HANAの音楽の世界の

## 根底にあるものとは…

MARTHは日頃、現代物理学が今すでに解説しているということを話しています。「この宇宙のすべてのものは振動している。それぞれ、固有の振動数を発して、振えている。当然、植物にも、人間にも、犬や猫たち動物も振動している。でも、そのような有機物の振動は不安定である。一方、石などの無機物は非常に安定した高い周波数を出している。」そこから見れば、古代の文明で、石（岩）をとても大切なものとして扱い、スエーナチュラル、神とまで崇めたのも、石の高い周波数に共鳴して、不安定な体やこころが正常に整うことに、人々が精通していたからだと言えるのかかもしれません。」ヒーリング・ニューエイジの世界・特に音楽に関しては代表的存続とされるMARTHが、そのことに着目して、岩盤の温熱ファンチャーを編みだしたこと、当然なことと言つてもよいのかかもしれません。」

そして、昨今では、ソルフェジオ周波数という壊れたDNAを修復するという音楽が注目を浴びているように、MARTHが音楽を媒体に、表現し続けていることも、当然と言えば、当然のことなのでしょう。音楽を創るときは、広い、愛のこころでないといいものがつくれない、だから、いつもその心がけで創作するようになっていると語るMARTHの作品の数々は、はからずして、ソルフェジオ周波数と同じ振動でゆらいでいるそうです。そして、さらに、かつては人々の成長を助けるトレーナーであつた彼は、私たちの知覚（脳）についても、興味深いことを語つてくれました。

「空や山や木々や花々や動物、すべてのものが振動して、それぞれに周波数を出しているけれど、たとえば、木々や、花々に色がついているわけではなくてそれは、私たちの脳が、緑なら緑、赤なら赤と知覚しているから、そう見えるのです。」

人類が死を超えてゆくには  
この世が現実でないことにつくづく気づくことによってだろう…  
by MARTH

一方、動物たちが見る世界は白黒だそうです。  
彼らの脳は色を知覚することができないからです。すべては受け取る受信機の問題です。  
自己と対象物との関係があつて、そう見えると言つたとしても、それが実際のものであるとは限らないのでしょうか…。  
そして、魂も私たちの脳では体の内側にあると感じているようですが、実際は、外にあって、だから、アカシック・レコードのようなことが言われたり、臨死体験として意識が広がって、全部が自分になつたというような体験談があるのでしょうか…。

そこからすると、「私もなく、他もなく、すべてがつながつていてひとつもの、未知なる、神秘なるもの」といういつもの MARTH の言葉がある種、真実味を増して聞こえてくるようです。新幹線に乗るときも、山を見ながら、木々を見ながら、 MARTH は「山ではない、木ではない、名称ではない：何だかわからない、神秘なるもの：」などとつぶやいていると言います。そんな MARTH のいつもながらの荒唐無稽な一見バカバカしいと見える話にとまどいつつも、私たちが惹かれていくのは、きっと誰もが本当は、深いところで万物の一部として、宇宙の真実を知っているからなのでしょうか…。

だから、彼の音楽に深く癒されるのででしょうか…。そして、最後に、MARTH はそのようなヒーリングやニューエイジのジャンルの一番の素晴らしさは、死を越えていける、現実感が減っていく、念望、希望、野心が薄まっていく、そのことで至福が始まっていく、それがやはりその世界の一番の良さであり、逆に現実感や五感が強まるほど、人間は不安や怖れにさいなまれる、そんな風に今はとらえている、と語ってくれました。

MARTH の作品をとおして、世界中の誰もが、賢者たちや古代の民の愛の深さに気づき、その胸に新たなる美しい世界への希望の灯をともすことを心より願います。



## すべての作品が生み出される

そのみなもとについてお聞きしました…。

Q：MARTHさんの音楽を聴くと、涙が溢れて止まらなくなつたという方が沢山いらっしゃいます。最近アルファ波が出るヒーリング音楽などが流行っていますがMARTHさんの音楽とは何か違っているように感じます。それはなぜなのでしょうか。

MARTH..まず、MARTHが音楽を創るときには、切ない、悲しい、愛しい、そ

ののような素直な気持ち、その中に入つて曲を創つているだけなのです…。アルファ波や、その他の周波数が出ているのか、出ていないのかは全くわかりません。そのこと

より、自分の本心、ありのままが大切なのです。自我が強がつていらない状態、悲しみを許し、切なさを許し、愛しさを許し、一見恥ずかしいようなありのままを叫ぶような、そんな想いを詩や音楽にこめ、そこに誠実であること、それだけを意識しています…。人々が聴いたときに、大切な人を想いだし、謝りたくなつたり、愛しいことを

伝えたくなつたり、彼は元気にしているのか…。彼女は今、何をしているのか…。隔たつていたものが自らの中から溶けてゆくよう、そんな音楽でありたい…そう想い続け、生みだしてきました…。今、質問されたことが起こるのは、そのような想いがすべての楽曲にこめられて、生み出されてきたからではないか…そのことを大切にしてきたからではないのか…そのような想いの中に入つてしまふ決して音楽を生み出さないで、きたからではないか…そのように感じてなりません。

MARTH..まず、MARTHが音楽を創るときには、切ない、悲しい、愛しい、そ

ののような素直な気持ち、その中に入つて曲を創つているだけなのです…。アルファ波や、その他の周波数が出ているのか、出ていないのかは全くわかりません。そのこと

Q：戦いが多い社会の中で、日々ストレスを感じて生きているのですが、そんな中MARTHさんの音楽を聴くと、すぐく穏やかな気持になり、愛を感じます。どういうところからそのような音楽が生まれるのでしょうか。また、これから新しい時代、新しい生き方について、MARTHさんはどのようにお考えですか？

A..MARTHの音楽は、愛と言つてしまえばそれだけのことなのですが、愛とはすべてがつながつてゐる、一体であるということにはなりません。ですから、愛といふものは、共に生きてゆきたかつたなあ…謝りたかつたなあ…戦いたくなかつたなあ…そのような本来の自分の中にある本質、本当の心、そこに帰つたときにだけ、楽曲を生み出すということをしてきたために、演奏する人々も含めて、また、この楽曲に関わる人々がそこへ自然と引っ張られてゆく、ということはあるのでしょうか…。そのように最初に創つたときのその想いや感覚は、仮にMARTHがそうでない感覚を持つているときとは何の関係もなく、「





創ったときのまま、それはCDとなり…演奏をするときも、演奏者の人々がそれに影響を受け…その想いというか、そのときに在つたものが、いつでも演奏の度に現れてくる、またその演奏を録音すると、その想いのものになつていて…そんなことがあるのかもしれません…。それゆえに、それを聴いたときに、聴いた側の人々もそれを感じ、そうなつてゆく…ということではないでしょうか…。

この世界は、長年分離や分断、隔たり、要はひとつではない、といった自我の拡大、競争の世界、言つてみれば争いの時であつたと言えるのではないでしようか…。

それは愛とは逆さまな価値観で營まれてきた時代だと言えるでしよう…。そのために、本当の本来の人間の内側にある本質、ワンネスや、ひとつである、一体であるという、本当の真理、それには合わない社会の中で人類は生きることとなつたのでしよう…。

当然、そこにはストレスといつたものや苦しみ、つらさが生まれ、その世界の苦しみというもののはばかりしれず、本質で生きられないなかつた人類の苦しみは、大変大きいものとも言えるのではないでしようか…。

自我とは何でしよう…自らの肉体を自と見、後は他と見る万物の部分のそれぞれの影響を受け…その想いというか、そのときに自己防衛のための大切な機能であつたものが、いつでも演奏の度に現れてくる、それは過剰であつては問題が生じます…。分離感の価値観が強い世界では、それは大変過剰になつてしまします…。これからますますそのようなことに目覚め始めた人類は、全く新しい生き方、とはいっても内側にはずっと古代からあつたひととなる（和する）想いが、やつと花開く時代になると言つても良いのではないでしようか。

しかし、

今までは分離や分断、隔たりということをベースに、そのことを強く信じた者、それが動物であつても、人間であつても、この勝負の世界で心理的に傷ついた人々、要は一体の世界の中で分離感が強い人々が世界を支配し、世界のリーダーシップを握ってきた…そんな時代だったのではないでしようか。

これから人類はそのことに気づき、その分離感は過剰になると私達の本質に合わない、苦しみにしかならない、ということを知り、またそれが宇宙の法則に合わないために、あまり良き人生にならない、ということに気づき始めるによつて、人類は愛する方へ、愛しむ方へ、ひとつなる方へ、つながっている、一体であるという方向へ、急速に進んでゆくのではないでしようか。そこから生まれる文化や文明、社会はとてもなく美しく、とてもなく愛しい、天が本来望んでいた、恐れからの争いや戦い、支配や隸属のない、素晴らしいものになつてゆくことは、間違いないことと感じてなりません…。



# MARTH CD をご使用頂いているドクターのお声をご紹介いたします

点滴療法研究会 会長

SPIC Salon Medical Clinic 総院長 柳澤厚生 先生

MARTH さんの音楽を聴きながら、いつも心静かに仕事をしています。よく海外に出張致しますので、その時も本と音楽を携えてまいります。「愛しているから」のプラハヴァーヴィーはニューヨークで聞きましたが、ゆったりとても優しく子守唄のようなBGMでした。本も素敵なバステルカラーの絵が優しく目に飛び込み、癒されました。私の役割は、例えば、放射線被曝の問題は原発に反対するのではなく、被曝から国民の健康を具体的に守るためにどうするかを考えています。子宮頸がんワクチン副作用問題ではワクチンに反対するのではなく、いま苦しんでいる子供たちをどう治療して救おうかと活動することだと感じています。必要ならば、患者さんのために医者はあらゆる束縛や枠組みを乗り越え、最善の医療を自由に提供する存在でありたいと思います。それを私は「ニューエイジ・メディスン」と呼んでいるのですが、皆が愛に包まれている世界を作りたいという想いが、MARTH の音楽に共通する部分があるのかもしれません。

「ヘミシンクとスピリチュアリズム」(文芸社)著者  
鳥の海歯科医院長 上原忍 先生

最近、待合室用にと思って買ったコンフォート社の癒しの CD を自ら積極的に聞いています。私の日課は、朝のジョギング。海辺を5キロ程走ってきます。自宅に帰って来て、今まさに春を予感させるこの季節にぴったりの曲を聞きながら、軽い瞑想をします。そして、今日も一杯エネルギーをいただきて、診療に向かいました。

医療法人 緑優会河瀬歯科医院 理事長

河瀬敦 先生

今私の仕事の中核になりつつある訪問診療のお供に、使わせていただいてます。現場では、会話もなく、音楽もない孤独な生活の人生の先輩方に、口腔ケアを施しています。当初は患者さんのリクエストで童謡などのBGMをかけていましたが、HANAをかけるようになってから、よくわかりませんが違いました。BGMと会話を癒される事で、認知症の進行がストップした方がおられます。お粥しか受け付けなかった方も白米が食べられるようになりました。最後を見取った方も病気で苦しまず…きっと最後の瞬間は HANA の想い出と共にあったのではないかでしょうか?素晴らしい音楽の力に感謝です。

元サンフランシスコ交響楽団主席第二バイオリンリスト  
音楽学博士 Daniel Kobialka ダニエル・コビアルカ  
「天上の音楽」は、宇宙のちからを体現する万物の一部であり、あらゆる生命にいどむ不調和を変化させるちからを備え、私たちを普遍的なみなもとの 強力なエネルギーに触れさせてくれます。以上のことは、優雅でメロディックなMARTHの音楽について、私が心の底から感じたことです。あらゆるものとを包含した普遍性への彼の深い理解を、私は自分の存在で深く感じ、創造的な表現の谷間をぬって、音楽を創り上げました。私は彼の偉大な創造性とその純粋なやさしさの一部であることに感謝し、光榮に感じています。この普遍的な美しさがもたらす平和、静けさ、情熱、そしてハーモニーに、リスナーの皆様をお招きいたします。

「健康自立力」著者

脳外科医・医学博士 田中佳 先生

20年以上前 まだ 日本では「癒し」「ヒーリング」という言葉は市民権を得ていない時代から、こころとからだの癒しをテーマとして商品の開発制作販売をしてきたそうです。全く知りませんでした。どうして出会わなかったのだろう。脳外科の救急にいたら出会わないかも。いま、こうして出会えて良かった。音楽を聴いていると、音楽が感情を揺さぶり、癒す力を持つ音楽により、副交感神経は刺激され、種々の脳内物質は分泌され、ストレスは発散され、自然治癒力は向上へ向かう。もはや向かわざるを得ない。なんと、泣きました。悲しくてではないのです。感動したという感覚もないのです。そんなに真剣に聞いてませんでした。なのに、あれ?顔に水が流れてるけど、なに?そんな感じでした。驚いたなあ、もう。何に働きかけたんだろう。曲もいいのですが、歌詞もいいのですが、聴き始めはふーんでした。1/3 くらい進んだところですかね、眼から水が流れたのは。で、もう一度聴きました。今度は歌詞を読みながら真剣に。あーそーかー今のわたしの琴線に触れるわなと。こんな 心に染み込んでくる音楽があるのかとても不思議に思いました。なんど聴いても染みてくる曲の数々。心の奥底まで染みてくる曲の数々。昔懐かしい何か、忘れかけていた何か、心の何かに触れてくる。激しくはなく、そっと包み込まれるような優しさで。悲しい訳ではないけれど、なぜか涙が溢れ出てくるのです。とっても不思議な感覚。あまり感じたことのない感覚。とても心地よい感覚。もっともっと浸っていたい。永遠に繰り返したいとも想えるのです。こんな涙はいくら流してもいい。でてくる言葉は、ただただ、ありがとうございます。自分のたどってきた人生の数々の経験ひとつひとつに響いていくのです。

「胎内記憶」著者、池川クリニック(産婦人科神奈川)  
院長池川明先生よりご感想を頂きました。

「愛しているから 世界中の人に贈る愛の詩」を読んで…

今回のアルバムの本は、今 MARTH さんが世界に向けて届けたい思いが、古代人からひも解き、失われた十氏族の末裔である日本人に向けて、古代人の思いを現代に伝えるという、壮大な意図が感じられます。また、生きること、死ぬことということを踏まえた現実社会をどのようにとらえているのかも垣間見ることができます。私なりの解釈で MARTH さんの文章の結論を出せば、ごみの自我の部分ではなく「たましい」の部分、すなわち宇宙の意思の部分で人と人がつながっていくことで、生きることに喜びを見出し争い事がなくなるだろうと伝えているように思います。私はこの「たましい」のつながりを母親と子供、母親と父親というように、家族の中で広めていきたいと考えていますが、MARTHさんは対象が世界の人と、スケールがけた違いに大きくなっています。しかし今回の本の中で明らかにされていますが、MARTHさんの生き方や考え方には、お父身上に大きく影響を受けていることがわかります。そうだとすると、多くの人が MARTHさんのお父様の考え方を理解し実践すれば、MARTHさんのように平和を愛し実践できる人たちが次々に生まれてくるということだと思います。まさにその考え方を広め、かつ実践するために今回の CD と本ができたのだと思います。同じ意識を共有する人たちでつながっていき、次第にそのつながりで地球全体を覆いつくすための暗闇に掲げる松明のような今回の CD と本が皆様の手元に届くことを祈っております。

## リリー動物病院東洋医学クリニック 院長 工藤ゆり子先生

動物病院に掛ける CD を探していた時に、あるご縁でこの音楽を知りました。それからは毎日『身体を失っても愛しているから～ Flute Solo with Orchestra』のフルートの音色に包まれながら、心穏やかに動物たちの治療をさせて頂いています。初めてこの CD を聴いた時、涙が溢れて止まりませんでした。不思議な感覚でした。懐かしいような…そして自分の大元というか素に戻れるような感覚でした。聴いているだけで本当に心が穏やかになっていくのですね…。私たちはいつも外部で起こることにおどらされ、心乱されながら生きているところがあると思います。選択には「愛の選択」と「恐怖の選択」があると言われています。こんな時代だからこそ、この音楽を聴きながらどんな時でも「愛の選択」ができる自分でいられたたらと思います。多くの動物や多くの方々がこの音楽で癒され、そして一つに繋がっていることを思い出す日が来ることを願っています。

## ささき歯科医院 院長 佐々木 裕道様

私は歯科医院を経営しております。最近縁あって MARTHさんの音楽に触れる事が出来、曲を待合室と診療室にかけています。透き通るような音、メロディにすっと頭の中に染み渡りまるで身体の一部を聴いているような錯覚に陥ります。柔軟な表情になる患者さんもいて、診療室にあらたな空気が流れていることを感じています。また就寝時や起床時に瞑想することがあるのですが、MARTHさんの音楽を静かに掛けながら行うと集中し易くなり、マインドフルな状態になり易く満ち溢れたパワーを得られるよう感じています。

## アニマルフレンド 赤坂 直比古先生

この音楽は立派な医療機器だと思います。  
おおげさに聞こえるかも知れませんが、涙するのはよくわかります。抗がん剤よりも効果的。日常的なデトックスに薬よりも有効。効果あり。綺麗な言葉、美しい音楽はキレイな結晶を結び、その反対では荒い結晶を作ります。生体は 60～70%は水。だから御社の CD を聞けば、生体の水はキレイな結晶をつくり、その結果身体は浄化され健康になる。植物も同じ。実験では同じ条件でキレイな言葉とそうでない言葉では咲き方、枯れ方に差が出ています。音楽 美しい音楽は、もっと違うことと思っています。だから癌患者に抗がん剤より、うつ病患者に抗うつ剤より、御社の音楽がいいと信じています。今後そんな症例には積極的に使うつもりでいます。よろしくお願ひします。

## NPO 法人バイオフィールド医学研究会 会長 医学博士 田中凡巳 先生

「身体を失っても愛しているからフルートソロ with オーケストラ」は、私自身の癒しの曲で、健康相談や講演に赴く際も必ず聴いています。フルートとオーケストラの演奏が見事にハーモナイズされていて、揺れ動く心の波が静かになっていきます。本当に魂に響く美しい調べですね。感動の涙とともに…

## 医療法人 愛光会 理事長 三宅歯科医院 三宅信義先生

最近、MARTHさんの音楽や書籍を医院やヒーリングスペースで流していますが、とても心地良い素敵な癒やしの空間が創られているを感じています。音や言葉は自分の中の無意識の色々なものを呼び起こしてくれます。無意識の奥底まで響いている音や言葉の持つ限りない力は、潜在意識の蓋を緩めていき、思考を超えた時空に人を誘います。そこから自分の本質へと繋がる道、愛や命に気づく至福へと繋がるのでしょう。全てのものが振動で成り立ち、共振、共鳴によって現象（世界）が生まれていることが証明されつつあるなかで、何一つ分かれているものが無いという生命の輝きに気づいていくのでしょう。この音楽や書籍の言葉には、そういうもともとの本質に帰る魂の響きが夜空の星のようにキラキラと沢山散りばめられているように感じられます。是非皆様におすすめしたいと感じています。

## さいきじんクリニック 院長 斎木豊徳先生

54年の人生を振り返ると…そう、いつも音楽が近くにありました。医学と音楽。実はあまり関係がないように思われるかもしれません、私はそう思いません。なぜならば最近の医療には「統合医療」という概念があります。統合医療とは西洋医療だけにこだわらず、代替補完医療（ホメオパシー、音楽療法やハーブ療法、ヨガ、瞑想など）も取り入れて患者さんに最も適している医療を組み合わせ、提供する医療のことです。その中に占める音楽療法は位置づけとして重要と考えます。私は時々こんな妄想をします。人は何もかもを失ったときにどんな状態になるか？何を心の支えにするのか？知らず知らずに歌を口ずさむことをしていないでしょうか？もし今の生活の基盤を失うような戦争や震災などで住む場所もない、着るものもない、食べるものもない状態ができたとしたら…このように皆不安でどうしようもない時にこそ、音楽・歌は多大な力を発揮すると思います。我々は、実はそれを知っているんだと思います。だけど豊かになりますすぎてそれを忘れていると思います。もう一度思い出してみるために古いアルバムを取り出してみて一つ聞いてみませんか？音楽から伝わってくるのはそれぞれの受け手によって違うでしょうが、きっと目に見えないもの。時に光ったり、風であったり、遠い記憶であったり…そして受け皿はなんですか？これもまた目に見えない、そう「こころ」であると思います。どちらも目に見えないものだから、人に伝えるのも説明するのもむずかしいのですが、その反面、感じていただけやすい環境や工夫が要るのです。MARTHさんの楽曲をとおしてその受け皿の「こころ」が呼び起こされたり、刺激剤のように感じやすくなる。まさしく「こころ」が感じやすい工夫ができる気がします。嫌なことがあったり、いいことがあったり、「こころ」の受け皿が刺激されているときに音楽を好んで聞いてみてはいかがでしょうか？嫌なことを忘れられるかもしれません。前向きになれるかもしれません。音楽の無限の力と医療を結びつけて、多くの方々と楽しみながら「明るく生きる。そしてたくましく生きる」を実現したいものです。皆様もぜひ何かを感じて共感していただけたら幸いです。